

教科	工業	科目名	建築施工	単位数	2
学科	建築	学年	2 学年	履修区分	選択
使用教科書	「建築施工」(実教出版)				
副教材など	「建築施工技術者試験テキスト」(実教出版) 補助プリント				

1. 科目の目的

- ①建築施工全般にわたる基礎的な知識と技術を習得することをめざす。
- ②建築施工において、その知識を実際に活用する能力と態度を身につけることをめざす。

2. 授業の内容と進め方

本校では、講義のみの授業にならないように、教科書を理解させるだけでなく、実習科目と連携をとって各種資格試験の取得にもつながる知識を習得しています。

3. 学習する上での留意点

特に実習及び課題研究にこの科目の内容を生かし、実際の建築工事の施工を通して学習を深めていくことが主になります。原則として全員が受験する「建築技術者試験」の試験問題にも含まれる内容でもあるので、合格めざして小テスト等も実施します。

4. 課題等について

単元ごとに学習到達目標に達しない生徒には、補習を実施します。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	建築物の施工方法に、興味・関心を持ち意欲的に取り組んでいる。
思考・判断・表現	工事の種類、工法を理解し、条件に適した施工方法を判断できる。また、実習等との関連性を判断し、関連付けた学習ができる。
技能	専門用語や施工方法を理解し、適切に表現できる。
知識・理解	専門用語、材料管理、施工方法を理解し、実際の作業においてそれらを利用できる。

6. 評価の方法

(1)出席状況 (2)授業の取組状況 (3)授業ノートの内容 (4)定期考査 などにより総合的に判断する。

《指導計画》 科目名 建築施工

2 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	1 建築施工のあらまし 1 建築施工にたずさわる人々 1 建築生産者 2 手続きに関する機関	○施工に関する人的要素としての建築主, 設計者と工事監理, 施工者それぞれの果たすべき役割を明らかにすると共に建築業務の企業形態, 経営組織, 下請建設労働者の内容について学習する。	中間考査 期末考査 (出欠、態度等により総合的に評価)
	5	2 建築施工の流れ 1 工事の準備 2 基礎工事 3 躯体工事 4 仕上げ工事	○工事計画や管理について基本的な事項について, そのあらましを理解できる。	
	6	5 設備工事 6 各種検査		
	7	2 工事の準備 1 地盤と敷地の調査 1 地盤調査・敷地調査	○施工計画をたてるため, 敷地とその地盤の綿密な調査が必要であることを認識させ, 調査の方法について学習する。	
	7	2 解体工事 1 解体工事の内容・工法の種類 2 解体工事の流れ・建設廃棄物		
	9	3 仮設工事 1 仮設工事の内容 2 工事測量 3 仮設建築物	○仮設工事の必要性と種類を理解しそれぞれの目的及び関連を知り, 実習等を通して実際の作業と連動させてその内容を理解できる。	
	10	4 揚重設備 5 足場	○敷地測量, 工事測量のあらましについて学習する。	
二 学 期	11	4 土工事 1 根切り 2 山留め 3 排水	○土工事の種類と各種山留め工法の特徴及び排水工法について学習させる。	中間考査
	12	5 地業工事 1 杭地業 2 砂利・割栗地業	○地業工事の種類と特徴について学習させる。 ○地下工事は特に慎重に行い、公害防止と安全には十分に注意するように認識させる。	期末考査 (出欠、態度等により総合的に評価)
	1	6 躯体工事 1 木工事 1 在来工法 2 枠組壁工法	○木材を使用する長所・欠点について理解させる。 ○在来工法と壁式工法の違いを理解させる。	期末考査 (出欠、態度等により総合的に評価)
	2	2 鉄筋コンクリート工事 1 型枠工事 2 鉄筋工事	○躯体の寸法精度に注意させ、支持方法や存置期間などについて理解させる。 ○鉄筋の定着長さ・かぶり厚さの確保の重要性を理解させる。コンクリートの発注・検査について理解させる。	
	3	3 鋼構造 1 製作工場作業 2 現場作業	○工場での鉄骨工事の流れを理解させる。 ○現場でのアンカーボルトの据え付けにともなう基礎工事について正しい施工法を理解させる。	
三 学 期	3			期末考査 (出欠、態度等により総合的に評価)